相双連合 勇気のアーチ

初戦コールド負けも諦めず大きな1点

被災地に希望

◇福島
喜多方 3 1 1 2 0 1 ― 8（創沼）
相双連合 0 0 0 0 0 0 1 ― 1（岩城）
（喜）須藤、小寺沢―飛翔
（相）林―遠藤
（本）中村（相）

目は真っ赤だが、どの顔も笑っている。コールドで初戦敗退にも相双連合ナインは、爽やかな表情でこの夏を締めくくった。「一人一人が楽しんでやれた。相双連合が一つになれた試合。充実していた。悔いはない」と遠藤主将は振り返った。

最後の最後で、諦めないことの大切さを体現した一発が飛び出した。スコアは0―8。無安打に抑えられ、コールド負け寸前の7回1死だ。4番・中村が低めの直球を強振すると、ベンチ17人の思いを乗せた滞空時間の長い打球は左翼席へと飛び込んだ。中村は三塁側の応援席へ右腕を高々と突き上げてダイヤモンドを一周。スタンドからは生徒や保護者が一つになった「相双」コールも沸き起こった。震災でつらいこともあったが、最後に打てうれしい」と笑顔で振り返った中村は富岡ただ一人の部員。当初は相双連合に入ることをためらったが「富岡の人に恩返しをするためには最後まで野球を続けなければ」と、単身で連合チームへ飛び込み、大きな一点をもぎとって恩返しした。

苦難を乗り越えた特別な夏だった。原発事故の影響で双葉翔陽は部員が14人と半減した。富岡は7人から1人、相馬農は4人が2人となった。双葉翔陽単独での出場も可能だったが、福島県沿岸部北部に位置する相双地区のライバル校でもある富岡と相馬農に合同チームでの大会参加を呼びかけて「相双連合」が誕生した。初練習は5月29日。練習は毎週土曜の計7度しかできなかった。それでも服部芳裕監督は「限られた中でも何かはできる。勝ち負けは別にして全部を出してくれた。本当にありがとう」とねぎらいの言葉をかけてナインと握手を交わした。

決して諦めない。ナインが最後に見せた粘りと試合後にこぼした笑顔は、被災地に大きな希望と勇気を届けた。

（重光　晋太郎）

富岡からただ1人の部員 中村ベンチの思い乗せて

スタンドで声援 中村・母大喜び

○…スタンドから声をからして声援を送った中村の母・友子さん(53)は「公平は〝必ず試合で1本打つから〟と言っていた。約束を守って格好いいところを見せてくれた。たくましくなりました」と大喜び。3つの盗塁を阻止する活躍を見せた遠藤主将の父・清輝さん(50)も「震災直後は野球を諦めていた。結果は残念だったけど、子供たちが最後に笑ってくれていたのが一番」と目を細めていた。

相双連合アラカルト

▼応援グッズ　保護者らはチームカラーの濃紺で背中に「心一つに。相双連合」とプリントされた応援Tシャツを着用。生徒は「俺達はまけないぞ！絆相双連合」とプリントされたタオルを首からかけて応援した。

▼ウグイス嬢　場内アナウンスを担当したのは双葉翔陽の元マネジャーで大沼に転校した松本杏奈さん（2年、写真）。

○…女子マネジャー3人も全力でナインを支えた。ポートした。記「マネジャー3人出」の思い」の録具としてベンチ入りした双葉「一生子さんは「やるべきことはできた。一

ユニホーム違っても心は一つ

相双連合・喜多方7回、相双連合・中村はソロアーチを放ちベンチナインが出迎える（撮影・西尾大助）

仲間がいなければ打てなかった

熱中甲子園　栗山英樹（スポーツキャスター）　地方大会編

苦境の中でも前へ進んでいく。言葉にはできても、行動に移すのはそう簡単ではない。相双連合の選手たちは戦う姿でそれを示してくれた。

連合チーム結成前のこと。母体となった双葉翔陽は、無理すれば単体のチームで大会出場は可能だった。それでも選手たちから「同じ地域に仲間がいるなら一緒にやろう」という声が上がったそうだ。高校野球の原点の一つが仲間。同じ一つの目標を目指し、3年間白球を追い続ける。そこで学ぶ仲間とのつながりは一生の財産になる。人と人のつながりが気薄な今の時代にあって、3校が結束してここまで来たことに価値がある。

ノーヒットに抑えられていた7回1死。4番の中村選手が一矢報いる本塁打を放った。富岡からただ1人の選手。仲間がいなければ打てなかったアーチだ。相双連合のみんなが打たせた一打と言っていい。震災という苦境の中で、仲間と野球ができる環境に感謝して最後まで戦い抜いた。

苦しくてもみんなで前へ進みましょう―。彼らのメッセージは大人の心に届いたはずだ。

（テレビ朝日系「熱闘甲子園」ナビゲーター）

福島県勢の夏の甲子園成績

25勝49敗。71年の磐城の準優勝が最高。勝利数は聖光学院が1位の9勝、磐城7勝と続く。出場回数は学法石川9度、福島商8度、聖光学院、磐城、日大東北の7度

厳しい環境下 7年ぶり白星

原発警戒区域

◇福島浪江▽福島第1原発から約8キロの警戒区域にあるが、湖南に6―0と完封勝利を収めて7年ぶりの初戦突破を果たした。初回に佐藤主将が右中間へランニング2ラン。今夏大会1号を放った4番は「ホームランになるとは思わなかった」と笑顔を見せた。生徒は県内の他校に避難して授業を受けている。厳しい環境の中での1勝に、佐藤は「支援してくれた方に恩返しができたと思う」と胸を張った。

◇福島浪江▽福島第1原発から約8キロの警戒区域にあるが、湖南に6―0と完封勝利を収めて7年ぶりの初戦突破を果たした。初回に佐藤主将が右中間へランニング2ラン。今夏大会1号を放った4番は「ホームランになるとは思わなかった」と笑顔を見せた。生徒は県内の他校に避難して授業を受けている。厳しい環境の中での1勝に、佐藤は「支援してくれた方に恩返しができたと思う」と胸を張った。

◇東東京

	1	2	3	4	5	6	7	計
高輪（江戸川）	0	0	0	0	0	0	0	0
都足立新田	3	0	0	1	0	0	0	4

▽2回戦　輪0 0 0 0 0 0 0 ― 0　都足立新田3 0 0 1 0 0 0× ― 4

都足立新田・高輪相手に4―0

浪江から都足立新田に転校 広田「うれしすぎる」夏1勝

で初戦を突破。福島・浪江からの転校生、背番号12の広田＝写真＝は回の合間に2年生エース岩野のキャッチボール相手を務めて「自分の投球をしろ。ピンチでは俺を思い浮かべて投げろ」と激励を続けた。浪江では1年夏からベンチ入りも2年連続初戦敗退。初体験の2年生に「うれしすぎます」と声を弾ませた。東京電力福島原発の関連会社に勤務する父・勉さん(42)、兄・一希さん(19)と離れて、3月下旬に母・幸子さん(43)らと都内のアパートに転居。一度は野球を諦めたが「甲子園に行きたい」という夢は抑えきれなかった。前夜、転校した自身に代わって捕手を務める浪江の佐藤主将に「お互い頑張ろう」と電話。古巣とともに快勝した広田は「甲子園で会いたい」と笑った。

（尾辻　剛）

双葉から転校 エースの久保田 延長11回力尽く

◇神奈川大和南▽古豪・横浜商相手に、福島・双葉からの転校生エース久保田が延長11回、168球を投げ抜いたが惜しくも敗退。試合後は涙を流しながらも「野球をもうやれないと思っていた。みんなに感謝。最高でした」と晴れ晴れとした表情を見せた。双葉でもエースだった久保田は震災後、母・博美さんとともに神奈川県内の大学に通う姉のアパートに移り住んだ。野球部の練習に初めて参加したのは4月8日、約3カ月と短い期間でできた、新たな仲間と完全燃焼した息子がいなかったら、めげていた。いろんな意味でありがとう」と感謝していた。

西東京

◇2回戦
都千歳丘 0 0 2 0 0 0 0 0 0 ― 2
（東）河野―下川
（千）根本―波江田
（高橋（東）―藤野（千）
都戸山 1 0 0 0 0 0 0 2 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 5
東海大高輪台（戸）菅原、藤木―近藤
（東）谷、大井、佐藤―浅川、川向
都王子総合 0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 2
（明大球場）
城 北 5 2 7 2 X ― 16
（王）溝本、井口―真野、池田
（東川（王）―門田（城）
かえつ有明 3 0 0 0 3 0 3 0 7 6 1 8 ― 33
（黒川（城）―吹田、鏡沢―伊佐
（日）南風原、石井
（国）井、渡辺（か）―長谷川（日）
都八王子桑志 3 3 1 3 1 4 0 0 3 0 0 0 ― 6
（府中市民）
◇1回戦
都国分寺 3 3 1 3 1 4 0 0 3 0 0 0 ― 6
都八王子桑志

東東京

◇2回戦
文京 0 0 0 0 0 0 0 1 1 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 4
（神宮）
世田谷学園（文）国正―大沢
（世）荻田―横溝
海城 3 2 0 0 0 0 0 3 2 0 0 0 ― 5
筑波大駒場（海）矢羽内、星沢、新井―佐藤
（筑）矢羽々、板東―忠岡
青山学院 2 0 0 0 0 0 0 6 0 1 6
（青）阿部、平下、小山―桐井
京華（京）吉田、渡辺―並木
（都駒沢）
高輪 3 0 0 0 0 0 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 4
（江戸川区）
都足立新田 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1 ― 2
（高）井上―岩永
（足）岩野―石谷
都小松川 1 2 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 ― 3
都葛飾野 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 0
（小）石川―湯浅
（葛）小嶋、松沢、高田、鈴木
―見目
東洋 1 1 2 0 1 0 0 0 0 0 2 0 0 5
（大田）
▽同 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 0
高輪（江戸川区）
▽同 3 0 0 0 0 0 0 0 0 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 4
輪
都足立新田 1 0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 1 ― 2
（高）井上―岩永
（足）岩野―石谷
都小松川 1 2 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 ― 3
都葛飾野 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 0
（小）石川―湯浅
（葛）小嶋、松沢、高田、鈴木
―見目
東洋 1 1 2 0 1 0 0 0 0 0 2 0 0 5
（大田）
▽同 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 0
都千歳丘 0 0 2 0 0 0 0 0 0 ― 2
（東）河野―下川
（千）根本―波江田
（高橋（東）―藤野（千）
都戸山 1 0 0 0 0 0 0 2 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 5
東海大高輪台（戸）菅原、藤木―近藤
（東）谷、大井、佐藤―浅川、川向
都王子総合 0 0 2 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ― 2
（明大球場）
城北 5 2 7 2 X ― 16
（王）溝本、井口―真野、池田
（東川（王）―門田（城）
かえつ有明 3 0 0 0 3 0 3 0 7 6 1 8 ― 33
（黒川（城）―吹田、鏡沢―伊佐
（日）南風原、石井
（国）井、渡辺（か）―長谷川（日）
都八王子桑志 3 3 1 3 1 4 0 0 3 0 0 0 ― 6
（府中市民）
◇1回戦
都国分寺 3 3 1 3 1 4 0 0 3 0 0 0 ― 6
都八王子桑志